



令和3(2021)年度 第4回ワークショップを開催しました。  
 令和4年3月19日(土) AM9:30~12:00 大池公園  
 『いろいろな種類のさくらを見て回ろう』 参加13名

日本気象協会は、今年のさくらの開花日を名古屋で3月21日(平年比3日遅れ)と予想していますが、大池公園では、ウスズミザクラが開花したものの、その他は開花前のワークショップの開催となりました。

今回は会議室で、再生プロジェクトの概要と進め方、樹木医さんからさくらの野生種の種類と品種を見分ける要点の説明を受けました。

その後園内をほぼ一周し、園内の8種のさくらの内7種について、個々の特徴や花での見分け方等の説明を樹木医さんから受けました。

合わせて、参加者で7種類のさくらそれぞれに説明板とさくら巡りマップそして樹名板を設置しました。

多くの質問と解説、説明板の設置を終了し会議室に戻ったのは12時過ぎでした。最後に事務所でアンケート記入の後終了となりました。

2年目となる今年度のワークショップも参加者・関係者の皆様のご協力により予定どおり実施できましたこと、厚くお礼申し上げ、来年度以降の本プロジェクトの継続と発展を祈念したいと思います。

参加者(人): 市民(5)、樹木医(1)、事務局(4)、東海市(3)

令和3年度ワークショップスケジュール

第1回ワークショップ【2021年10月30日(土)】

済

- 『樹木医の先生とさくらを診て学ぼう』
- ・事業の目的とこれまでの経緯の説明
  - ・さくら豆地知識クイズ
  - ・さくらの元気度調べ
  - ・さくらを守る作業(施肥)の実践

第2回ワークショップ【2021年11月27日(土)】

済

- 『さくらの手入れ(日当りを良くしよう)』
- ・樹木医の先生によるさくらの特徴と剪定の意義の説明
  - ・さくらの枯枝などの不要な枝と隣接木の競合枝の剪定の実践
  - ・衰弱したさくらの剪定方法、さくらと競合する木の伐採の説明

第3回ワークショップ【2021年12月18日(土)】

済

- 『さくらの手入れ(肥料をあげよう)』
- ・樹木医の先生の指導
  - ・元気がなくなっているさくらへの施肥(開花に向けた栄養補給)

第4回ワークショップ【2022年3月19日(土)】

済

- 『いろいろな種類のさくらを見て回ろう』
- ・種類の違うさくらを見て回ろう~説明
  - ・説明板を設置しよう~作業

□大池公園(東海市中央町三丁目、面積約24.8ha)は1973年(昭和48年)に緩衝緑地として開園。さくらの名所として毎年春にはソメイヨシノ他のさくらが咲き誇り、最近ではライトアップも行われ花見の名所となっていますが、開園後約50年が経過しソメイヨシノ等の老木化が目立ってきました。

□『大池公園さくら再生プロジェクト』は、大池公園のさくらをこの先も楽しめるよう、市民の皆さんと東海市で協働して守り次世代に引き継いでいくとともに、再生させ、名所としての魅力を更に付加することを目指し、令和元年度から開始しています。

□本プロジェクトの一つの『大池公園さくら再生ワークショップ』は令和2年度に3回、今年度は4回実施しましたが、本事業は内容を工夫しながら今後も継続していく予定ですのでぜひご参加ください。

さくらの知識(樹木医さんより)

① 日本の野生のさくらは11種と言われることがあるが、その内1種がカンヒザクラで中国や台湾に自生するものが沖縄に渡ってきたさくらなので、これを含めず10種と考える。

(ヤマザクラ、オオシマザクラ、カスミザクラ、エドヒガン、マメザクラ、チョウジザクラ、ミヤマザクラ、タカネザクラ、オオヤマザクラ、クマノザクラ)

② サクラの品種は多く、日本には800種類とも言われている。園芸品種はソメイヨシノやヤエザクラ等、自然交配や花期が合えば交配が容易なので、江戸時代から新品種が人工的につくられてきた。

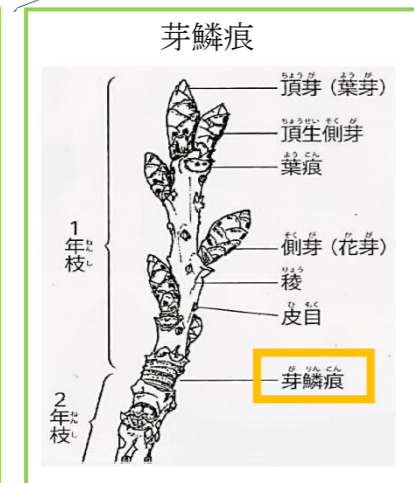
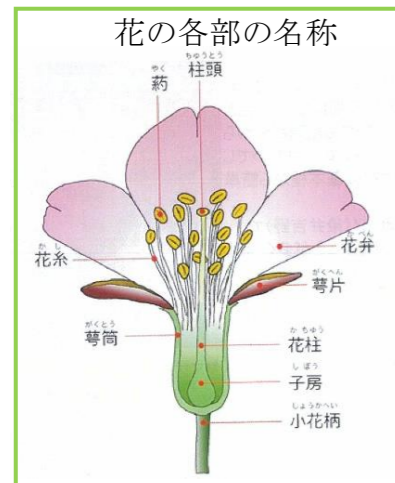
さくらの見分け方のポイントは花を観察すること、花を観ないと判らないことが多い。花の裏側のがくとうこ特徴があるのでそこを見る。

大池公園の8種のさくら

① ウスズミザクラ (淡墨桜) 開花期: 3月中~下旬頃 	② ソメイヨシノ (染井吉野) 開花期: 3月下~4月上旬頃 	③ シダレザクラ (枝垂桜) 開花期: 3月中~下旬頃 	④ エドヒガンザクラ (江戸彼岸桜) 開花期: 3月中~下旬頃 
⑤ ヤマザクラ (山桜) 開花期: 3月下~4月上旬頃 	⑥ オオシマザクラ (大島桜) 開花期: 3月下~4月上旬頃 	⑦ ヤエザクラ (八重桜) 開花期: 4月中~下旬頃 	⑧ ジュウガツザクラ (十月桜) 開花期: 秋~冬 



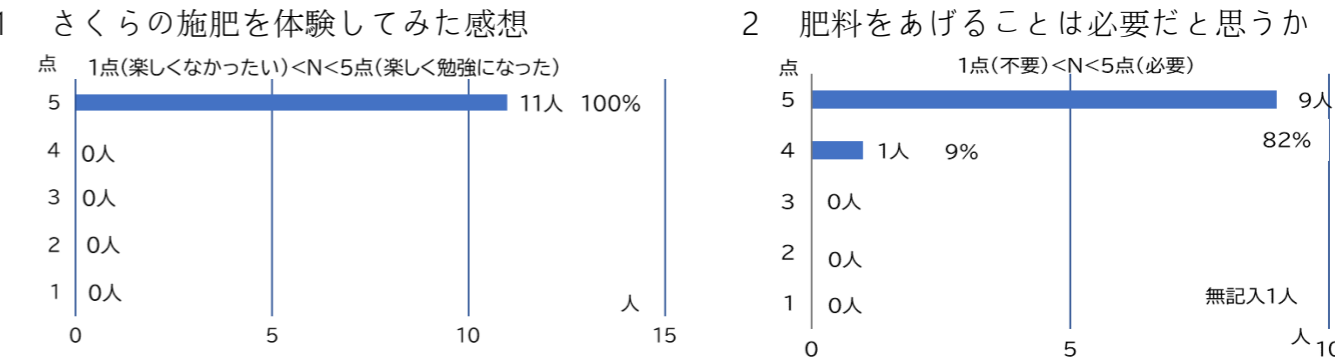
## 7種のさくらの観察ルートとその様子



芽鱗：(がりん) 休眠芽の外側を覆っている鱗状の小片で葉や葉の一部が変形したもの。芽鱗痕は前年の鱗痕がついていたところに残る痕。枝の先端から最初にある芽鱗痕までが前年に伸びた枝になる。枝先から芽鱗痕を順に数えていくとその枝の部分が何年前のものか、一年でどのくらい枝が伸びるかなどがわかる。



## 第3回ワークショップ(12月18日)参加者アンケート結果(回答数11)



3 次回から取組みたい活動項目

樹勢の回復困難な桜の木は早く伐採して他の木の成長を助けた方が良くはないかと思っておりますので、選別と伐採を進めるべきでは。

さくらの苗を植えて、さくらをもっと増やしていきたいです

先生からのお話で、今また肥料の効果が出るのは葉が付いて以降...とのお話があったので、2年目、3年目と継続参加すると効果が感じられる活動になると思いました。

植樹の取組み、そこからの定期的な観察

エリア毎に、市内の学生など巻き込んで公園全体を施肥作業して、市民に対する意識UPさせる活動(企画)

桜の開花とこの活動との対比がわかるように、長い目で記録が残るとよいように思います。その結果は東海市のホームページなどで公開して頂けるとありがたいです。(この活動のホームページはもうつくってあるとのことで見えます)

さくらのじょうたいを見てダメになったえだをきりたい。

まだまだ知らないことばかりなので、毎回とても楽しいです。

何をしたらいいかまだ分からないので、また次回を楽しみにしています!

4 感想・自由意見

肥料が必要だと良くわかった

植え替えをしてから施肥かなと思いましたが、今日も勉強になりました。

ひりょうをやったのがたのしかった

実際に手を動かして肥料をさくらの木にあげて、さくらに愛着がわきました。さくらに肥料がいきたるのはさくらが散ってからとのことですが、さくらがさいたのを見るのがとても楽しみです。ありがとうございました。

さいごにふだをつけるとき、後ろにもじをかくのが楽しかったです。

3と重なりますが、連続参加が実感でき、かつ新規参加者の方にもやさしい活動を考えて頂けると良いと思いました。

あと、プロジェクトの場での活動と併せて、市としてはプロの方とどういった取り組みをしていて、その内のこの部分をプロジェクトでやっている...という相関が分かると、自分の活動が全体の一部を担っていると感じられて良いと思います。

再生ワークショップを表に見える形での(目)標は良い

子供達も取組み、毎年続けていくワークショップになると良いですね

今回はメインストリートの横の桜とうすずみ桜に肥料をあげましたが、穴を掘ってみると、掘る場所によってずいぶん土の状況がちがうことがわかりました。道路や側溝を工事される場合の小さな石(砂利)はその場に残さず、処理された方が良く感じました。ありがとうございました。

思ったより体力しごとだった。

やったことのないことを経験させて頂けて親子共、毎回楽しませて頂いています。